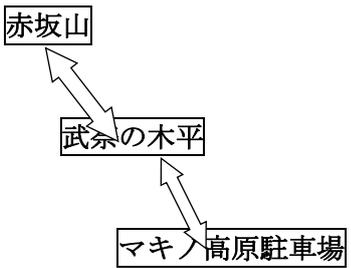


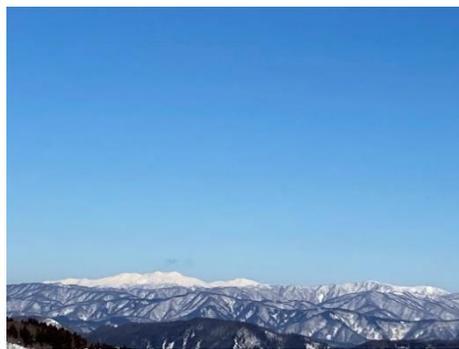
1月11日 湖北 赤坂山

木田 修司

山名	湖北 赤坂山	山行名	個人山行			
ルート	マキノ高原駐車場 ⇄ 武奈の木平 ⇄ 赤坂山					
山行日	2023年1月11日	天候	快晴			
参加者	リーダー：木田 女性：蒲田、幾田、徳田、林 男性：松嶋、若林	サブリーダー：小川	合計：8名			
ルート概略図 	コースタイム					
	地名	時：分	地名	時：分		
	マキノ高原駐車場	着	08:30	マキノ高原駐車場	着	16:15
		発	08:45		発	
	武奈の木平	着	10:35		着	
		発	10:45		発	
	赤坂山	着	12:30		着	
発		13:35	発			
武奈の木平	着	14:55		着		
	発	15:15		発		
<p>晩秋の「メタセコイア並木」に引き続き、その冬景色を見たくて今回の山行を計画した。雪山の経験が多くないことからベテランのOさんにCLをお願いしたが、SLでカバーするからとCLとして雪山に望んだ。</p> <p>山行の成否の主因は天候によるが、冬山での悪天候は命に関わる問題であることから、通常の例会のように日程を決めて「山行案内」を出すのではなく、晴天がほぼ確実と思われる3日前に実施日を決定する方法をOさんの指導を受けて初めて採用した。実施予定日を8日間設け、12名の参加申込み者があったが、日程の合った8名での実施となった。(参加できなかった4名の方には大変申し訳なく思っています。)</p> <p>予定を上回る快晴でポカポカ陽気の中をマキノ高原スキー場のゲレンデが終わる登山口でアイゼンを装着し出発。ブナの木平東屋の手前で新雪を踏み分けての冬道を体験しようと3名が挑戦、膝までの雪に悪戦苦闘の末にワカンを装着して5名の待つ東屋に到着したがここで30分余の時間を費やしてしまった。沢沿い、谷の迫る登山道を慎重に進み、山頂手前の鉄塔で記念撮影。ここから全員がワカンをつけ、雲一つない真っ青な空の下、白山・伊吹山を遠くに眺めながら頂上までの最後の登りを楽しんだ。山頂からの下りはOさんが持参してくれたソリで、童心に帰って何度も上り下りを繰り返した。</p> <p>下山途中にアクシデントがあったが大事に至らず、快晴が続く絶好のコンディションであった。</p>						
ヒヤリハット：滑落(約3m)						



〔赤坂山山頂〕



〔霊峰白山の遠望〕

松嶋

一日を通して文句なしの快晴で、たっぷりと雪遊びを楽しむ事が出来ました。

候補日をいくつか設けて確実に晴天を狙う作戦が功を奏しました。(結果、参加できなかった方には申し訳ないですが)ソリ滑りはみんな子供のように良い笑顔でしたね。楽しい雪山山行をご一緒させて頂きありがとうございました。又、長時間の運転お疲れ様でした。心より感謝いたします。



幾田 邦江

C L、S Lが、天候の良い日に山行できるよう調整してくださったので、超快晴でした。雪山とは思えないくらい暖かくて、無風で、青空を通り越して群青色の空でした。雪の白と、空の群青色のコントラストが高く、なんて素敵な光景なんでしょう。ワカン、初体験でした。先輩方にワカンの魅力を十分教えて貰ったので、my ワカンが欲しくなりました。

S Lが、私達のみでそりを用意してくださったお陰で、全員でそり遊びができました。歳を忘れ、ぎゃーぎゃー歓声をあげて、童心に帰ることができました。メンバーにも恵まれ、一緒に超感動できたことが、忘れられません。同行の皆様、ありがとうございました。



蒲田

最高の雪山でした。雲一つない空の色は、暗く見えるほどの青さ。遠く伊吹山、白山までも見える眺望。そして雪もたっぷり。初めてつけるワカンで足跡のない雪の上を歩くのは楽しく、こけても楽しい。ソリはもちろん楽しい！歓声をあげながら1日思いっきり遊びました。日程調整はじめ準備万端整えていただいたC L、S L、そしてご一緒してくださった皆様ありがとうございました。



一口感想文

小川 弘二

今までは雪が積もっていればそこそこの天気であれば登っていたが、昨年からは天気の良い日(降水確率と風速)を充分吟味して登るように(C L木田氏と相談して)変えた。それと言うのも冬山の怖さと年齢に寄る体力の衰えによるところが大きいと考える。

そういう訳で通常の例会のようにいついつ実施と前もって決めていないため参加を躊躇された方も多かったと思うがお許し願いたい。

幸いにも実施当日は晴天で風もなく、ぽかぽか陽気の中、マキノ高原の登山口でアイゼンを装着し登山開始。その後、ブナの木平の東屋を超え頂上手前の鉄塔でワカンを着装し、赤坂山の頂上に向かい直登を試みる。ワカンが足りなく、アイゼンのみで登頂したW氏は膝まで雪に埋もれ悪戦苦闘。積雪量と登山者数が少ない山の場合ワカンは必需品である。

山頂では雲一つない青空の元、真っ白な雪景色を施した白山・伊吹・霊仙等が絵のように聳え立てっていた。少し風があり、少し下がった窪地で昼食。その後、ソリ遊びをしながら下山した。ブナの木平の少し手前の沢沿いを歩行中、ワカンを引っ掛け沢に滑落という、恥ずかしい体験をしながら無事下山（ヒヤリハットご参照下さい）。雪山が初めてという方もいたと思うが楽しんで貰えたならば幸いです。

天気と仲間に恵まれて楽しい1日を過ごさせて頂き有難う御座いました。

若林

この5年間コロナ環境下で個人的に、雪山登山は今年の綿向山と今回の赤坂山であった。

昨年 綿向山の雪山登山も最高の天気に恵まれたが、今回の赤坂山雪山登山は更に好天に恵まれた。数名の方が日程合わず参加出来なかったのは残念では有ったがこの日を選択して頂き楽しい雪山の体験が出来たのはラッキー。

昨年の綿向山は冷え込み登山者も多く登山道は確保されア

イゼンのみで登頂も、今回は平日でもあり、登山者も少なく新雪を踏み分けてのルートもあり、頂上付近ほとんどアイゼン効果は無かった。ワカンの必要性を実感 下山時はスノーシューを使用も平地を登り下りするには効果も木々の間を抜いて雪山を歩くにはコンパクトなワカンがベストである。

昼食を済ませた後 ソリ遊びの時間を確保頂き、半世紀以上前の童顔に戻り雪山を満喫する事が出来た。今回の企画と自動車提供頂いたCL SLに感謝 ご参加の皆さんお疲れ様



〔赤坂山山頂にて〕